

## 自身を高める就職活動

植物生産環境科学科 AさんBさん（平成26年度卒業）

私は緊張症であり、面接が大きなストレスでした。しかし、そんな私でも無事に内定をいただくことができました。就活はなんとかできる部分が多いように感じました。

今回は、その「なんとかできる」ことを紹介したいと思います。

ずばり、①フレッシュさを押し出すこと、②会社のニーズを汲み取ること、これらで身に付けることができれば、なんとかいくものです。

①「フレッシュさ」は、とりあえず魅力的な人材としての大前提になります。具体的には「明るく、前向きで、チャレンジ精神を持つ」ような性格を指すように思います。私が受けた多岐にわたる分野で、共通してよく聞く人物像がこれでした。

②の「会社のニーズ」ですが、これはそれぞれの会社の社訓や社是、求める人物像などから推測していきます。そして書類や面接で、「会社の欲しい答え」を提示できれば大成功です。この提示がかなり難しいですが、各々の創意工夫で乗り切ります。

もちろん、就活を始めてすぐは、なかなかうまくできません。上記のコツを分かってもできません。そこで必要なのが練習です。いろんな会社を受けて、毎回反省をして、次に生かす。勉強やスポーツで経験してきたことを同様に就活でもするだけです。次第に上達していき、いずれパニックにならず、落ち着いて受け応えできるようになります。創意工夫も反省中に浮かぶことが多いです。

まとめると、要点を押さえて、実行、反省して、次に挑む。PCDAサイクルですね。

就活は苦しいけど、息抜きをはさんで挫けないように頑張ってください！（Aさん）

最初に私がどういった気持ちで就職活動に臨んだのかを話したいと思います。私は就職活動において「後悔しない就活」というスタンスで臨みました。後悔しないという事は「あそこの選考に受かっていれば」、「あの時ああ言っていれば」といった後悔ではありません。

「あの時面倒くさがらずにESを出せば、説明会に行けば」そういった自身の気持ち次第でどうにでもなる後悔です。相手の判断やとっさの出来事に後悔してもどうしようもありません。しかし、自身の問題は今後ずっと後悔することになると思いますので、そうならないようにがんばってください。

さて、私が皆さんに最も伝えたい事は周囲の環境を上手く利用する事です。ESや面接で悩んでいる方はたくさんいらっしゃると思います。そんな時、自分で抱え込まずに周りを見回してください。友達や先輩、先生などたくさんの方がいらっしゃると思いますので、そういった方々にアドバイスを頂くと良いと思います。また、大学などで開かれるセミナーや就職支援課も積極的に利用すると良いと思います。無料である上にプロの目線からアドバイスを頂けます。さらに、そういった場所は、やる気に満ち溢れています。その雰囲気の中に自身を置く事によりモチベーションアップにも繋がります。そして最も重視するのが選考会場です。会場でたくさんの人と友達になり、苦しい事や夢など同じ思いを共有する場所であり、有益な情報交換の場でもあります。会場が県外の場合、そこで友達になった人と一緒に名物を食べたり、観光したりトリフレッシュもできる大切な場所です。私にとっても選考会場は勝負場でもあり、楽しみの場でもありました。

このように周囲の環境を上手く利用し、常に自身を高めながら夢に向かってがんばって

ください。(Bさん)

### 私の就職活動経験からの3つのおすすめ

森林緑地環境科学科 Cさん (平成26年度卒業)

私がこの就職活動を通して皆さんに主にお勧めしたいと思うのは下の3点です。

- 1 早い段階で自分を見つめ、就職活動に備える
- 2 面接では企業の方とお話しできるチャンスと捉える
- 3 学生同士で話す

1 私の場合、早い段階で就職活動に向けて行動できたことが良かったと思います。

私は講義や学生生活を通して将来取り組みたいことを見つけ、技術職に就きたいことを研究室の先生に相談しました。そしてどのような企業があるのか教えていただき、志望する企業を決めました。同時に志望している業界・企業に関する専門分野の勉強になるという考えから研究室の先生のご指導の下、研究に取り組みました。また、早期に志望する企業を決めたのでその企業の情報収集も集中してできましたし、調べるうちに企業への志望度が一層強くなりました。

何か目的があると就職活動に意欲的になれると個人的には考えています。みなさんも講義・サークル・アルバイトなど様々な経験を通して、“何に興味があるのか” “何を感じ、考えたのか” “将来何をしたいのか” “自分に何ができそうか” など、早い段階で自己分析すると就職活動に向けて動きやすくなると思います。取り掛かりが早ければじっくり考えられるし、普段から意識して生活できるので色々発見できるのではないのでしょうか。

2 私は過度に緊張してしまい、面接の初めはガチガチでした。

しかし、徐々に憧れの企業の方とお話しできるという嬉しさも出てきて少し和らいだ覚えがあります。皆さんも緊張感は大ですが、緊張に飲まれないように“自分の働きたい気持ちを伝えよう”という思いでお話しすると良いのではないかと思います。

3 合同説明会や、面接等で知り合った学生さんとお話しするのはお勧めです。

私は同じ企業を目指す同士と思って、機会を見つけてはお話しました。“この人たちと一緒に働けたらいいな”と就職活動中のモチベーションになりますし、緊張しているときは会話することで自分を落ち着かせることもできました。

私の就職活動の方法は一例に過ぎません。人それぞれの就職活動があるとは思いますが、私の場合は将来何をしたいのか考え、早い段階で志望する企業を決め、就職活動本番に向けて動けたことが良かったです。この本には就職活動をされた色んな方のメッセージが載っていると思うので、ぜひ役立てて納得のいく就職活動にしてください。

### 「たった1つの成功法」お教えします

応用生物科学科 Dさん (平成26年度卒業)

答え. エントリー

就活は早い者勝ちだとよく言われます。皆さんが読まれているこの冊子の中でも、そのことを書かれている先輩方が多くいると思います。都市部では早い段階からの「就活塾」なるものが存在するようです。希望の企業に内定を頂きたいのなら、そんな学生とも

戦わなければならないかもしれません。しかし、そんなことを言われても何をすれば良いか分からない。それが皆さんの本音ではないかと思います。私もそうでした。そこで具体的に皆さんが手軽に今すぐにでもできる就活対策が「エントリー」なのです。

①リクナビ、マイナビ等の就活支援サイトへの登録

②気になっている企業・業種へのエントリー（合同・単独説明会へのエントリー）

エントリーにお金は一切かかりません。手間は少々かかります。しかし、この程度の手間は容易いものです。気になっている企業があれば、企業のホームページの就職情報を定期的にチェックしておいて下さい。エントリー後のキャンセルは幾らでも可能です。状況に合わせて、取捨選択を行って下さい。

当たり前のことではないか？ そう思われている皆さんがいらっしゃると思いますが、意外と抜けがちな点でもあります。何事もスタートが肝心です。以下に就活を終えてのアドバイスを何点か記します。参考にして下さい。

①エントリー後は、実際に足を運んでみる

ほとんどの方は説明会から就活が始まると思います。ぜひ一度行って下さい。一度足を運んでしまえば、後は流れに乗ってしまうだけで良いのです。この行動は自分の長所にもなります。「とにかくまずは行動すること」私はこれを長所として、挙げていたような…。

②根拠のない自信

特に面接なんかは緊張しますよね？ 面接会場でも周りの学生が偏差値の高い大学出身だったり、大学生活の中で自慢できることがなかったり…。しかし、自分に自信を持ってください。周りは知らない人ばかりです。何を話しても、恥ずかしいことはありません。勇気を持って、自分がやってきたことを自慢してください。

③楽しみましょう

私自身、就活はとても楽しかったです。いろんな場所に足を運び、いろんな方とお話ができ、充実した数ヶ月だったと思います。皆さんも就活を終えたときに、そう感じられていることを願っています。

### 教職を志望する農学部生へ

海洋生物環境学科 Eさん（平成26年度卒業）

私は農学部生ですが、教員を志望し、教職課程をとりました。もし、教員を希望する方の参考になれば幸いです。

私の周りの友人には、教育文化学部の学生も含め、数名の人が教員免許を取得し、教員採用試験を受けました。試験に合格した人もいますし、当然落ちた人もいます。私も、鹿児島県の教員採用試験を受けましたが、一次試験で落ちてしまいました。合格した人たちと、自分を比較して、合格に向けて重要になるだろうと思ったことを書いていきたいと思っています。

採用試験に向けて勉強をする上で、何よりもまず始めにして欲しいことは「教職仲間」を作ることです。これは、単に意識を高め合うというだけではなく、農学部には廻ってこないような、採用試験に関するガイダンスやセミナーの情報をいち早く入手し、試験勉強をより有利にすることが出来るからです。特に、教育文化学部の学生と親睦を深めている

と、より多くの情報を入手することが出来ます。二次試験で行われる小論文や集団討論、場面指導の対策、添削指導を行っている時もありますので、教職仲間同士で一緒に受講することが望ましいです。採用試験の勉強はすることが沢山あり、一人でこなすことは絶対に不可能です。本気で教員を目指す仲間を見つけ、情報交換の機会を増やすことが試験合格の近道になると、私は思います。

これに併せて、教育実習でお世話になる先生方との親睦を深めることも大切です。教育現場で培った経験を直接聴けるだけでなく、教員採用試験を受けるに当たって重要なポイントやアドバイスを頂くこともあります。また、教育実習をその場限りの実習と思わず、教育実習後も、教員採用試験の結果報告等、連絡を取り合い続けることが大切です。私の場合、採用試験に落ちた頃から臨時採用の話を持ちかけていただけました。

農学部から教員を目指すことは決して簡単ではありません。教員免許を得るために履修する科目が多い上に、採用試験の勉強をこなさなくてはなりません。研究室との両立もしなくてはなりません。それでも頑張っってやり抜けば、自分にとって大きな力になるはずです。皆さんの努力が実るよう心より応援申し上げます。

### 公務員を目指す人へ、「勉強」と「遊び」のメリハリを。

畜産草地科学科 Fさん（平成26年度卒業）

まず、民間の就活と公務員の就活で大きく異なる点は、公務員の場合、一次試験（筆記試験）を通過してからES・履歴書を提出する場合が大半だということ。つまり、一次試験を突破しないと自分の志望動機すら読んでもらえません。そんな、最初の関門である一次試験。その対策は「とにかく勉強する」、この一言に尽きます。勉強のスタイルは、公務員専門学校に通う、市販の問題集を使った独学など様々あります。ちなみに、私は公務員専門学校が宮大内で開講する講座を受講していましたが、友人は独学で第一志望に合格しました。自分のスタイルに合った方法を選択するのが一番ですが、一次試験は様々な分野から幅広い範囲で出題されますので、早めに取り組んでおくことを推奨します。

一次試験に合格すると、ES・履歴書の提出があります。ここで注意すべき点は、合格発表からそれらの提出締め切りまで1~2週間程しかないということです。一見、期間は十分にあるように見えますが、これが意外に短いです。一次試験の勉強の合間にでも考えておくべきだと思います。

二次以降の試験で必ず行われるのが面接です。是非、大学の就職支援課や公共の就職相談所（ハローワーク等）を利用して対策を行って下さい。私は他大学の学生の就活事情が知りたかったため、公共の就職相談所で面接や集団討論の練習に参加しました。実際、様々な情報を得ることが出来ましたし、勉強へのモチベーションも上がりました。私は比較的早い時期から練習に参加していたため、初めての二次試験（面接）にて内定を頂くことが出来ました。面接で大切なことは、「自信があるように見せること」だと思います。正直、どんなに練習を積んでも実際の面接では緊張しますし、不安も無くなりません。だったらせめて、「自信がある」ように振舞っちゃいましょう！背筋を伸ばし、口角を上げ、元気に挨拶をする…。基本的なことですが、印象がガラリと変わります。私も自信なんてありませんでしたが、常に心がけることで面接では良い評価をして頂けたように思います。

公務員の就活は非常に長い闘いになります。冒頭で「とにかく勉強を」と述べましたが、

時に「遊び」の時間も必要です。私も友人と買い物に行ったり、食事をしたりと勉強と遊びのメリハリをつけるようにしました。この「遊び」の時間があったからこそ、私は最後まで勉強し続けることが出来たのだと思います。公務員を目指す後輩の皆さんに私の体験談が少しでも参考になれば幸いです。笑顔で就活が終われるよう、頑張ってください！

### 就職活動体験レポート（公務員試験地方上級）

畜産草地科学科 Gさん（平成26年度卒業）

私は大分県庁技術職（畜産）に就きたいと思い、3年生の4月頃から公務員試験の勉強を始めました。

独学で試験勉強をしたかったので、まずは一次試験突破のために、過去問題集と試験に必要な科目の参考書を購入しました。一般教養科目についてはとにかく問題を解きまくり、解き方や知らない知識を叩き込みました。専門科目の技術系の問題集はあまり出回っていないので、授業でもらったプリントや参考書を読み込むことで知識を増やしました。試験の一週間前からは予想問題集を購入し、時間配分を意識しながら本番のように問題を解く練習をしました。

二次試験は筆記と面接の試験でした。筆記試験は専門科目の記述問題なので、一次試験と同じような勉強をしました。面接については、事前に提出を求められる面接カードの内容を元に質問を受けました。面接の際は、自分を作らず、自然体で受け答えするのが一番だと思います。面接カードに書いたことは暗記し、県庁のホームページに目を通して、どのような施策を行っているかを知っておいたほうがいいです。

公務員試験は勉強、面接ともに、自分が納得のいくまで準備したものの勝ちだと思います。

勉強中は相当辛かったけれど、今となっては頑張った本当によかったと思っています。

### 就活中の獣医学生へ From 大根フットの珍獣

獣医学科 Hさん（平成26年度卒業）

○獣医師の活躍できるフィールドは広い

獣医師と聞いてまず人々がイメージするのは「動物病院にいる動物のお医者さん」だと思います。しかし、獣医師の活躍できるフィールドは予想以上に広いです。臨床獣医師以外にも企業、公務員にも獣医師にしかできない仕事はありますし、それぞれにやりがいもあります。あらゆるフィールドを視野に入れて、まずは自分がどんな仕事をしたいのか枠にとらわれず考えることをお勧めします。そのためには実際に仕事内容を見学できるインターンシップなどはフル活用し、自分が一番魅力的に感じる仕事は何であるかを自分自身で把握すべきです。また、実際に現場で働いている先輩のお話を伺う、信頼できる先生方に相談に乗って頂くのも大変有益だと思います。就活中は孤独を感じる瞬間が多々あるとは思いますが、思い切っているろいろな世界に身を投じ、周囲の人々に助けを求めることも忘れないでください。

○情報収集

就活は個人の能力云々というよりは、情報戦であると感じます。自分が就きたいその仕事にはどんなスキルが必要で、またどういう人間像が求められるのか。あらゆるツールを利

用してとことん追究してください。ツールとしてはインターンシップ、ハローワーク、OB訪問などが挙げられますが、私個人の経験としては他大学の学生との情報交換が非常に有益であったと感じます。また、私は公務員試験の面接日直前まで他大学の受験生と互いに履歴書の添削をし、面接練習をしていました。今振り返ると、自分一人で対策するよりもはるかに効果的であったと感じています。地方大学の学生に比べて首都圏の学生が情報量において有利なことは多々あります。同じ方面を目指す仲間を見つけ、情報を共有しながら頑張ってください。

#### ○面接必勝法

重要なことは「とにかく恥を捨てて自分をさらけ出す」ということです。面接官は何千人もの学生を相手にしており、正直に申しますと自分によほどの特技や経歴がない限り、面接官の印象にすら残りません。そんな特別な人はごく少数です。では面接官の心を動かすためには、どうすればよいのか。それには他人と同じようなことを言うのではなく、自分のアピールポイントを自分自身の言葉で伝えることが必要です。私の例でいうと、私は足が激太で「大根フット」と呼ばれていたことがコンプレックスであり、また大学に入り命名されたあだ名が「珍獣」でした。「大根フット」も「珍獣」も決して名誉な称号でないことは明らかですが、私は自分がこの様に呼ばれる所以を自分なりに分析し、それをそのまま現地で面接官にお伝えしました。時には面接官に爆笑されてしまい、こちらが困惑する場面もありましたが、大丈夫です。ずっとしかめっ面をされているよりも、相手に笑われるくらいの状況の方が面接中に素の自分が出せると思います。やってみる価値ありです。

### これから就職活動に立ち向かうみなさんへ

生物生産科学専攻 I さん（平成 26 年度修了）

この冊子を読んでいるみなさんの中には、「就活嫌だなあ」とか、「何から始めたらいいのだろう…」など、不安や焦りを感じている人も少なくないと思います。私も去年の今頃はそうでした。じわじわと迫り来る、就職活動のプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、具体的に何をすればいいのかわからず、なんとなく友人について行って就職セミナーを受けたり、とりあえず就活本を一冊買ってみたり、そんなことをしていたと思います。そんな私ですが、就職活動での経験を通して得られたアドバイスを紹介するので参考にして頂ければ幸いです。

まず、私が就職活動において最も大事にしていたことは、「企業が求めるものと自分がやりたいことがズレないようにする」ことです。これは当たり前と言えば当たり前ですが、非常に重要なポイントです。例えば、真面目で優秀な学生でも、自分のやりたいことが定まっていなければ、面接等で熱意を上手く伝えることができないと思います。同じように企業側も、いくら元気があって能力の高い学生でも、ベクトルがどこを向いているのかわからない学生は採用し難いはずです。

では、具体的にどうすればいいのでしょうか。まず自分のベクトルですが、これは学内等で開催されている自己分析や企業研究の催しに参加するのがおすすめです。気軽に参加できますし、私もそこで自分のベクトルを見つけることができました。そして企業側のベクトルを知るためには、企業側の気持ちになることです。自分だったらどのような人を採用したいか、どのような能力・考え方を持っている人と一緒に働きたいかを考えてみてく

ださい。そうすれば、自分がエントリーシートや面接でどのように振る舞えばいいのか、自ずと分かってくると思います。

最後に、就職活動は個人戦ではなく団体戦です。学校や先生方に寄せられる求人情報、友人が持ってきてくれる説明会の情報、研究室の先輩やOBから頂く生の企業情報など、決して一人では得られないものがたくさんあります。そして、支えてくれる周囲の人達に対する感謝の気持ちを忘れないでください。きっとそれは就職活動を終えてからも、あなたにとって大きな財産となるはずです。

### 自分と向かい合う機会

地域資源管理科学専攻 Jさん（平成26年度修了）

私の就職活動は、セミナーや合同会社説明会への参加から始まりました。セミナーでは、面接のマナーや自己分析のやり方を学び、合同会社説明会では、いろんな職種の方の話を聞く機会がありました。その中で、自分は将来何になりたいのか、どういう仕事がしたいのか考えるようになりました。また、受けてみたい企業が見つかったからは履歴書と向き合う日々でした。志望動機や、自分の長所・短所、大学生活で頑張ったことなどを書いてみると、自分の履歴書はパツとすることがないと感じてしまいましたが、特殊な経験がなくても、今までの生活を振り返ってみると、考え方のきっかけになった出来事や、壁にぶつかった時にどのように解決していくのかなど、自分の根底にあるものについて考えることで、自分はこういう人間なのだと、自分自身に対する理解が深まった分、面接などでも自信を持って話せるようになりました。

就職試験では、一般常識、SPIや時事問題などを勉強する時間はもちろん必要ですが、一番は自分を見つめなおす時間にあてて、今後の自分について考えることで、より有意義な就職活動になるのではと思います。就職活動がつらいと思うときもあるとは思いますが、結構楽しめる部分も多いので、自分なりに就職活動を楽しんで、最後まで納得のいく結果を求めてください。

### 今、本気になるとき

森林草地環境科学専攻 Kさん（平成26年度修了）

私が公務員を志望した理由は、一生働いて人の役に立てる仕事につきたいと思ったからです。就活の際に「仕事と家庭を両立できる」という話はよく聞きましたがそれと同時に「実際入ってみたら聞いていたことと違っていた」という話も同じくらいよく聞きました。就活をする際にただ内定が欲しいという思いが強くて、10年20年後の自分を考えず今の自分のしたいことだけを考えていましたが、ふと本当に自分は一生ここで働いていけるのかという疑問がでてきました。そんな時に公務員という職を知り、知れば知るほど公務員という仕事の内容にも働き方にも魅力を感じ、公務員を目指すことに決めました。

「公務員」という職業は漠然としていましたが、公務員試験に向けて、勉強することで新しい魅力を見い出せた気がします。私にとって、公務員は自分自身を高められる仕事で、自分が頑張った分、報酬だったり役職が変わってくるから、全てが自分次第だと思

ます。どこまで出来るか、力を試すにはもってこいだと思います。

公務員を目指す方は併願をいくつかされることが多いと思いますが、6月には毎週試験が入ってきますので、ひとつひとつの試験を糧にすることも大切です。ひとつの試験が終わっても気を抜かずに出来なかったところを振り返り、面接対策の時期も継続して勉強も続けることによって、たとえ最初の試験がダメだったとしても必ず道は拓けます。公務員試験は長丁場です。この長い戦いをひとりで戦い抜くのは困難であっても、仲間と一緒に必ず勝ち抜くことができます。もし今、公務員試験を受けようかどうしようかと迷われているのであればすぐにでも行動して下さい。その一步がきっと人生の中で大きな一步になると思います。勉強中、不安になることも辛くなることもありましたが、でもそれを乗り越えたあとには心からの喜びが待っていました。これから勉強するみなさん、自分を信じて頑張ってください。

### 何にせよ確認は大事

水産科学専攻 Lさん (平成26年度修了)

これから就活を始める人達は、面接の前に身だしなみだけでなく持ち物もしっかりチェックするようにしてください。思いがけないところで落とし穴があったりします。

別に持ち物のチェックと言っても忘れ物がないか最終確認するということではありません。選考の過程で、面接を重ねていくと企業によっては交通費が出たりします。その際、領収書の提出や記入が求められます。そこで、「電車代いくらだったっけ？」ってなることがあります。まあそうなるも皆さんも持ってますよね、スマホ。それで調べて記入すると思います。私の場合、ある食肉加工会社の最終面接で交通費の支給があり、スマホの電源をつけて電車料金を調べ、記入しました。記入が終わり道具をかばんに入れて名前を呼ばれる順番を待っていました。いよいよ名前を呼ばれ、面接が行われる部屋に入りました。約20分の面接は滞りなく進み、質問の時間となった時です。スマホのマナーモードの振動音が部屋中に響き渡りました。その後、すぐに面接は終了して部屋を出ましたが、その時のやっちゃった感は凄まじいものがありました。結果？もちろん落ちましたよ。

「自分はちゃんとできている」と思っている人も、抜けていることは多々あります。それは上記のように面接前だけでなくエントリーシートの記入から書類の提出の時もあり得ます。「自分に限ってそんなことねえよ」とか思っている人ほど危険です(自分もそういうタイプでした)。まずは何事も自分に謙虚になって行ってみてください。提出前、面接前の確認なら(締切という条件はありますが)、何度でもできます。しかし、書類は1回しか受け付けられませんし、面接も各選考で1回しかありません。そのたった1回のチャンスを油断や慢心で無駄にするというのはもったいない限りのことです。例え志望度の低い企業であっても、1社内定が出ているのとできていないのは精神的な余裕もかなり差があります。ぜひ1度立ち止まって身の周りを確認してみてください。



末尾ですが、皆さんの就活が上手くいくことをお祈りしています。

## 心掛けた3つのこと

応用生物科学専攻 Mさん（平成26年度修了）

就活は私にとって刺激と可能性と不安を感じたとても貴重な経験で、人として成長をすることができました。これから就活を控えているみなさんも、就活に立ち向かい、乗り越えてください。就活の時期が変わるためより不安に感じることもあるかと思いますが、私が就活をする上で大切にしていた3つのことを少しでも参考にさせていただけたら幸いです。

### 1、軸をしっかり持つ = 自己分析

就活をする上で「研究がしたい」、「宮崎で働きたい」、「給料が高い所がいい」など人それぞれ軸にするものがあると思います。私の場合は「食品企業の研究職」でした。これは今まで生きてきた23年間と今後の目標をしっかり分析した結果です。そのため、選考に落ちて不安になっても軸はぶれずに悩むことなく取り組むことができました。

### 2、とにかく早く行動する

私は夏休みには食品企業の研究職を受けた知り合いや先輩からESを数10社分集め、書いて練習をしました。書いた文章は2週間ほど寝かせた後に自分で推敲して、質を高めました。そのため、ESは自信を持ってメ切的1週間前には届くように提出できました。エントリーに関して1日何社するとかではなく、興味のある企業についてはエントリーが解禁になったらすぐにエントリーしました。その結果、某即席めん企業では早くエントリーした人を対象とした早期選考を受けることができました。SPI等の勉強も12月までには一通りやっておきました。1月以降は説明会やESの提出等で勉強する暇はありませんでした。

### 3、情報の取捨選択と整理整頓

情報はネットでも説明会でもたくさん得られますが、自分にとって必要なものを見極めるようにしていました。この企業は何に力を入れて今後どのように展開するのかという情報と自分のやりたいことをリンクさせて、整理することで同業他社との比較ができ、面接での質問にもすんなり答えられたと思います。企業の情報だけでなく自分のエピソードもしっかりと引き出しに整理しとくことで状況（ESの文字数、面接で与えられた時間、企業の方針や社風など）に合わせていつでも答えられるようにしていました。

また、やってよかったと思ったことは**日記をつける**ことです。就活はどうしても1人行動になるため、何かあっても友人に話したりできません。そこで、日記に書いてアウトプットすることで気持ちを整理していました。また、説明会や面接の内容や雰囲気もメモし、選考の反省や次の選考で一貫性を持たせること、他企業と選考が被った時にその当時の気持ちを振り返ってどちらを選ぶかの判断材料などに役立ちました。

就活は今後の人生を左右する一つのポイントだとは思いますが、楽しんでください。様々な人との出会いに刺激を受け、初めての土地の景色や食を楽しみながら私は就活をしてきました。就活を楽しいものにするためにもいち早く行動し、何事もポジティブに考えてください。そして、**自分自身**が納得できる就活になることを願っています。